墨中だより

令和4年３月17日（木）
３月号
墨田区立墨田中学校

令和４年度の墨中はさらに進化します
―誇れる墨中を築いてくれた生徒・教職員に感謝―

校長　　杉浦　伸一

〇３月１６日（水）8:35～の放送朝礼より

本年度も、体育館に全校生徒を集めての対面朝礼は出来ませんでした。昨日、本年度最後の放送朝礼をリモートで行いました。コロナの影響で、１、２年生が、明後日に行われる卒業式に参加できないことや卒業生の歌声などが聞かれないのはとても残念ですが、縮小しても実施できることに感謝し想い出に残る卒業式にして欲しいことを伝えました。学年間での交流の場は、部活動や委員会活動以外ほとんどありませんでしたが、この１年間、どの学年も本当によく頑張り学校全体としてはこれまでにない素晴らしい墨中を築いてくれました。日頃より授業に集中し、落ち着いた学校生活を送り続けたことはもとより、最近行った各学年の校外学習でもその様子が見て取れました。

３年生の卒業遠足は、秋の修学旅行の大成功、進路もほとんどが決定し、伸び伸びとマザー牧場でバーベキューをしながら卒業前のひとときを楽しんでいました。

１年生は、７月の野外体験の経験を生かし、すでに、３年生の修学旅行を想定し、朝のラッシュ時に東京駅でチェックを受け、その後、上野や浅草近辺のポイントを探し、与えられた問題を解きながらウォークラリーを行いました。高度な知力と体力、チームワークが要求される取り組みにもかかわらず、トラブルもなく班長がリーダーシップを発揮し、時間内にどの班もクリアできました。この様子から４月に入学してくる新１年生のよき先輩、お手本となってくれる２年生への自覚が感じられました。

２年生は、不運にも１年生の野外体験活動に続き、２年生のスキー教室まで延期の末、直前にコロナ禍により中止となってしまいました。急きょプランを変更して準備期間も短く、中学生になって、ほぼ初めての班行動にもかかわらず、東京タワーや皇居での見学態度、昼食の黙食、後半の公共交通機関を使っての班行動もルール・マナーを守ってしっかり行動できていました。また、当日は予期しないこの時期の気温が２４℃にもなり、生徒から体力を奪い熱中症など心配しましたが、互いの体調を配慮し合うなど班で知恵を出し合い自分たちで臨機応変に解決をして、全ての班が無事時間どおりに最終解散地点の押上駅まで戻って来たのは見事でした。この調子なら２ヶ月後の修学旅行を充実したものにして成功させ、墨中の最上級生として、卒業していく３年生の成果を引き継ぎ、さらによい墨中を築いてくれると確信しました。

これらの生徒達のがんばりや成果は、教員の熱心な日頃の指導と綿密な計画が支えていることは言うまでもありません。生徒と教師、生徒同士、教員同士の信頼関係無くして成果は望めません。墨中の現在は、そうした生徒・教師・保護者・地域の方々の信頼関係で成り立っています。今後もその絆をさらに強く深くなればと思います。

―令和３年度卒業生に幸あれ―

最後に、卒業生の皆さんは１年生の頃から現在まで落ち着きがあり、かつ、まとまりのある学年として、特に、あいさつのできる生徒、授業に集中して取り組める生徒、優しさと思いやりのある生徒など、新たに墨中のよいイメージを築いてくれました。後に続く在校生へも皆さんをお手本に、新たな進化を遂げる筋道も残してくれました。給食時間の音楽や校則の見直しも、皆さんの生徒会がきっかけです。墨中の生徒自治は益々発展していくことでしょう。

「若い時の苦労は買ってでもせよ」と言いますが、お金をもらっても欲しくない「コロナ禍による苦労」を無理矢理押し売りされ、卒業生の皆さんは中学１年生の後半から卒業まで中学生活の３分の２以上をこの状況の中で過ごしてきました。抱えてしまった以上は、必ず貴重な経験として将来に役立てようと、まずは、生徒と教職員が命・安全・健康を第一に考え、一丸となってこの局面を乗り越えようと共に努力してきました。皆さんは、その期待以上にしっかりとした意識と行動がとれ、逆境を耐え抜き、乗り越えることで、忍耐力、集中力、持続力、主体性、協調性など、人間の成長に必要な多くの資質・能力を身につけました。当たり前の生活が、実はとてもありがたいことと気付き、感謝や思いやりの心も育ちました。受け身であった授業が自ら学ぼうとする意欲に変わり、宿題や家庭学習、提出物がしっかり出せるようになり成績が伸びました。コロナ禍に耐え、ピンチをチャンスに変え成長を遂げた令和３年度卒業生を誇りに思います。その卒業生を支え、見守り続け、学校にご理解ご協力いただきました保護者の皆様に感謝申し上げます。そして、５年後、１０年後、卒業生の皆さんがどんな人生を歩んでいるか、今後の楽しみにしています。